

福島第一原発事故による放射能汚染から

霞ヶ浦を守ろう

早急な対策を求める

12/8 市民集会

このままでは危ない

2011年3月11日の福島第一原発事故によって、霞ヶ浦は放射能汚染の深刻な事態が進行中です。

ウナギもコイも

すでに霞ヶ浦のうなぎ・なまず・ふな・こいなどの魚が放射能の食品安全基準を上回り、食べることができません。霞ヶ浦は、漁業・農業も含め、140万人が利用する、いのちの水・かけがえのない水源であり、放射能汚染から守らなければなりません。

国や県は動かず

しかし、国や県の対応は遅々として進みません。一刻も早く、放射能汚染の定期的測定を開始し、効果的対策を講じることを求める市民集会にご参加ください。

市民の声を上げよう

報告

「流入河川への放射性物質の流入状況」

安保満貴（アサザ基金事務局）

「霞ヶ浦の放射能汚染とその対策案の検討」

飯島博（アサザ基金理事長）

「生活者・漁業者・農業者の連携で」

大石光伸（常総生協副理事長）

「放射能汚染へのとりくみ」

霞ヶ浦アカデミー

漁業者・農業者からの報告も

日時 12月8日（土）午後2時開演

会場 土浦亀城プラザ 大ホール

参加費 500円

主催 いのちの水・霞ヶ浦を守る

市民ネットワーク

連絡 090-3094-7326 坂本

029-871-7166 アサザ基金

福島第一原発事故による放射能汚染から 霞ヶ浦を守ろう！

2011年3月11日の福島第一原発事故によって、霞ヶ浦は放射能汚染という深刻な事態が進行しています。

うなぎ、ふな等出荷停止

すでに霞ヶ浦のうなぎ・なまず・ふな・こいななどの魚が放射能の食品安全基準を上回っているため、5月7日より国から出荷停止を指示されており、食べることができません。解除の時期は未定とされています。

流入河川の汚染進む

霞ヶ浦に流入する56河川の底泥の放射能汚染はさらに深刻です。牛久市の小野川(13,200ベクレル)を始め、筑南水道の給水口近くの土浦市の新川(11,500ベクレル)、備前川(9,980ベクレル)でも、高い値が出ています。

いのちの水・霞ヶ浦

霞ヶ浦は、漁業・農業も含め、140万人が利用する、まさにいのちの水であり、かけがえのない水源です。いのちの水・霞ヶ浦を放射能汚染から守らなければなりません。

今必要なことは、霞ヶ浦の放射能汚染の実態を正確に把握するため、測定をきちんと行うこと。

霞ヶ浦を放射能汚染から守る 20万人署名にご協力を

早急な対策の実施へ、国と県を動かすために、20万人署名にご協力ください。

署名用紙はネットワークにご連絡ください。

いのちの水・霞ヶ浦を守る市民ネットワーク



そして、民間、行政、研究機関、企業などが力を合わせて、放射能汚染対策を講じることです。

国・県などは無責任

しかし、霞ヶ浦の放射能汚染については、市町村などは一切口を閉ざしています。国や県などは測定さえ十分に実施しようとしていません。それどころか、国交省は逆水門を締め切り、湖内の放射能の蓄積を促進しています。

民間のNPOアサザ基金の河川のモニタリング調査によって、流入河川の底泥の放射能汚染が進み、移動禁止の焼却灰(8,000ベクレル)より汚染されていることが判明してきました。

国・県を動かそう

今こそ、市民の声を署名に表し、国と県を動かしましょう。

一刻も早く、定期的な測定を開始し、効果的な対策を講じさせましょう。

流入河川に蓄積している放射性物質の霞ヶ浦への流入を阻止し、子どもたちの命と健康、自然環境を守るために、測定と対策の速やかな実施を求め、署名へのご協力をお願い申し上げます。